



## がんの早期発見、早期治療のために

外来看護師長

がん化学療法看護認定看護師 後藤 真澄

現在、日本では2人に1人ががんになり、がんは死亡原因の1位です。私たち認定看護師は、日々、患者さんのがん告知の場面に立ち会わせていただいています。今回は、患者さんやご家族からいただく質問などをお伝えすることで、皆様に参考にしていただけたらと思います。

**Q1.** 毎年検診を受けていたのに、どうして検診では見つからなかったの？

**A1.** がん検診で100%がんが見つかる訳ではありません。検診を受けていたとしても、検診の時点では見つけれない小さながんであったり、急激に進行するタイプなどがあったり、検診で発見できずに何らかの症状が出て発見に至る場合もあります。

**Q2.** 痔だと思って受診していなかったが大腸がんだった。

**A2.** 検診で便潜血が陽性となり受診を勧められても、痔だと思って受診しない方がいます。痔であっても、出血が多ければ貧血になることもあります。特に男性は恥ずかしいと感じる方もいらっしゃいますが、勇気を出し

て、ぜひ受診して下さい。

**Q3.** いつも〇〇科に受診していたのに、どうしてがんになっていることが分からないの？

**A3.** がんは身体の中のあらゆる場所にできます。がんを疑って検査をしない限り発見は難しく、〇〇科では受診している病気の検査以外は行いません。（症状がない場合、検査しても保険が通らないのです。）かかりつけがあっても、がんの検診を受けましょう。

**Q4.** がんかなと思っていたけど、怖くて受診できませんでした。

**A4.** がんと言われるのが怖いとおっしゃる方は多くいらっしゃいます。ただ、もしがんであれば、遅くなるほど大変なことになります。はじめから診察を受けるのが怖いと思う方は、看護師への相談も可能です。がん相談支援センターへご連絡下さい。





# 紙面健康セミナー



## がん患者さんの治療と仕事の両立支援

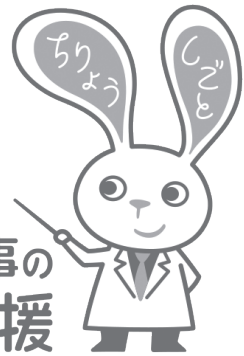
医事課 MSW 加藤 恵里

がん患者さんの約3人に1人は20代～60代で罹患しています(国立がん研究センターがん対策情報センター『全国がん登録罹患率・数報告』より)。働く世代の皆さんががんと診断されたら、病気のことはもちろん、それ以外にもいろいろな心配ごとが生じるでしょう。「勤務先に伝えるべきか、どのように伝えたら良いか」「キャリアに影響がないか」「仕事を続けていけるか」「症状や副作用で勤務先に迷惑をかけないか」「治療費や生活費が心配」「家事や育児と両立できるか」……

多くの就労世代の患者さんが、治療と仕事の両立について何らかの葛藤を抱えています。がんの治療は、がんの種類や進行度に応じて手術(外科治療)、化学療法(抗がん剤治療)、放射線治療等の様々な治療を組み合わせることが基本となりますが、手術が終わってからも他の治療を続けることが少なくありません。近年は入院日数が短縮化し、通院治療が増えています。仕事を続けていくため、場合によっては勤務先へ、仕事に影響を与える病状や治療内容につい

て情報提供し、仕事内容に応じて働き方を配慮・検討してもらう必要があります。勤務先としても、従業員が治療を続けながら働ける方法を検討するため、適切な情報提供を求めています。

当院には両立支援コーディネーターの研修を受けた看護師や医療ソーシャルワーカー等があり、必要に応じて院内・外の関係者や職場との連携をとりながら、治療と仕事の両立をサポートしています。仕事と治療の両立や治療費・生活費の心配ごと、使える社会資源に関する相談等は、気軽にご相談ください。



### 治療と仕事の両立支援

